

## 日本臨床検査医学会 平成 24 年度 第 4 回理事会議事録

日 時：平成 24 年 10 月 27 日（土）12：00～16：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，安東由喜雄副理事長，矢富裕総務理事、前川真人会計理事，  
宮地勇人，米山彰子，村上正巳，谷直人，北島勲，佐守友博，野島孝之，渡邊直樹，本田孝行，  
田窪孝行 各理事  
一山智 監事（以上 15 名）

欠席者：尾崎由基男，藤田清貴，横田浩充，賀来満夫，和田隆志，杉浦哲朗，康 東天 各理事  
高木 康 監事（8 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、宮地勇人 理事、野島孝之 理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

### Ⅰ 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の平成 24 年度、平成 25 年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定について報告された。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 学術推進化委員会（矢富 裕 総務担当、藤田清貴 担当理事欠席のため）

会員から募集していた平成 24・25 年度の学術推進プロジェクト研究課題は 7 月末日で締切り 13 題の応募があった。研究計画の獨創性・先進性(5 点)、研究計画の実効性・妥当性(5 点)、臨床検査医学・医療における発展性・将来性(5 点)の合計(15 点)の基準で審査し、委員の審査結果を審議して採択課題を 4 題選定し、研究助成金は 1 題は 2 年間で 200 万円、3 件は 100 万円とした。そして、本結果を理事長に報告し、メールで 9/20 配信、9/26 締切で持ち回り理事会を開催し、承諾された。その結果を、応募者に通知するとともに、臨床病理誌と HP にて会員に公表したことが報告された。

##### 2) 教育委員会（北島 勲 担当理事）

日本医学会、日本医師会「平成 24 年度医学生、研修医等をサポートするための会」助成事業に対して、教育委員会が企画を応募した。その結果、京都での第 59 回学術集会時において、女性医師、研修医、学生の支援が主旨である「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」が 9/25 に日本医師会より承諾された。このプログラムとして、理事長挨拶、女性先輩医師による臨床検査医学のイントロダクション、臨床検査専門医取得を目指す女性および学生医師、学生の現状等に関する座談会、指導医により女性医師、若手医師、学生支援の在り方についての提言、意見交換会が予定されていることが報告された。

##### 3) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事）

9 月 11 日に委員会を開催して、日本臨床検査医学会ならびに日本臨床検査専門医会から内保連ルートで厚労省に提出した平成 24 年度診療報酬改定提案書の成果について報告があった。提案した 24 件のうち 16 件は新規保険収載あるいは増点（削除項目は削除）が認められたこと、内保連診療領域別委員会（米山彰子委員長）において、生体検査の有用性やコスト調査を行い、「生体検査に関する提言」として取りまとめ、平成 23 年 9 月、厚生労働省保険局医療課に提出し、結果は今回の診療報酬改定提案書にも反映され評価が得られたこと、内保連では特定内科診療の枠組みの新設を厚労省に要望したこと、臨床検査振興協議会での活動として、平成 23 年度は医療政策委員会の 4 ワーキンググループで作業を分担し提言書の作成を行い、平成 23 年 9 月厚生労働省医政局経済課ならびに保険局医療課に提出し高い評価を得たこと、平成 26 年度診療報酬改定に向けて、内保連ルートの提案書提出までのスケジュールに合わせて、会員を対象に次期診療報酬改定における提案項目を募集し、合同委員会で提案項目を決定し提案書書成分担を決め、平成 25 年 3 月 10 日までに内保連へ提案書を提出する予定であることが報告された。

##### 4) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

2012 年 5 月から、検査目的に適合した検体の質を確保するための検体保存評価法の検討について計画を策定し、検討を進めている。臨床検査を目的とした検体の保存安定性に関する多施設検証データを解析し、各検査項目および検体の適正な保存条件と保存期間について一定の方針を示すことができるか検討し、その結果を第 59 回学術集会で報告する予定であることが報告された。

#### 5) 利益相反委員会（村上正巳 担当理事）

9月27日の委員会開催において、第59回学術集会時のCOI開示に関して、学術集会時のCOI開示の書式、学術集会時のCOI開示の条件とホームページの記載について検討したこと、そして10月18日の委員会で、COIに関する指針、細則、申告書等の各種フォーム、学会誌におけるCOI開示、役員におけるCOI開示およびCOIに関するQ&Aのホームページ作成を順次行っていくことが確認され、まず、指針を作成することとなり、委員が分担して作成することが報告された。

#### 6) ガイドライン作成委員会（北島 勲 担当理事）

臨床検査のガイドラインJSLM2012の進捗状況であるが、10月上旬時点、79項目中72項目が入稿完了しており、11月末の第59回学術集会までには完成する予定であること、11月MTJ誌に本ガイドラインの紹介記事が掲載予定であること、ガイドラインの送付先、従来とおりのアンケートを実施し今回はHPからもできるようにすること、次回学術集会でシンポジウムの開催を検討していることが報告された。

#### 7) 専門医・管理医委員会（北島 勲 担当理事）

学術集会時に開催される教育委員会企画「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」への協力の具体的事項として、参加者募集の協力、菊池委員長が「指導医による女性医師、若手医師、学生支援のあり方についての提言」の発言をすること、学術集会時に委員会を開催し専門医、管理医数の増加や認知度を高める方法を検討する予定であることが報告された。

#### 8) 検査項目コード委員会（佐守友博 担当理事）

第59回学術集会で委員会を開催すること、そして真鍋委員がJLAC10に関してワークショップを開催するため委員会としてもポスターの情報提供などの協力予定であること、標準マスター協議会JLAC10システム改善WG開催が開催されており順調に進んでおり期日までにほぼ計画通りに報告がまとめられる予定であること、外保連生体検査コーディングWGでJLAC10の基本コード桁数を維持しつつ、各分類コードに新しい概念を一部付加する方向で生体検査コーディングをまとめることで基本合意されたことが報告された。

#### 9) 広報委員会（佐守友博 担当理事）

第59回学術集会で委員会開催の予定であること、11月5日の臨床検査振興協議会広報委員会において、技師会、臨床検査医学会、臨床検査専門医会の委員も参加し5団体の委員で開催されたため、その内容により活動内容を協議する予定であることが報告された。

#### 10) 遺伝子委員会（宮地勇人 委員長、横田浩充 担当理事欠席のため）

臨床検査振興協議会医療政策委員会WG-Dで、コンパニオン診断薬の薬事承認と保険償還について実態の把握と課題解決を目的として協議しているが、当会遺伝子委員会で、コンパニオン診断薬に関する課題と要望を聴取していること、第59回学術集会で委員会開催の予定であることが報告された。

#### 11) 精度管理委員会（谷直人 担当理事、前川真人 委員長）

2012年秋号よりIVDグローバルニュースの電子化を開始するとともに会員に通知する予定であり、従来の冊子2部の送付は継続すること、2012年度は昨年より12施設増加し、参加施設数が105施設になったこと、2013年度CAPサーベイプログラム案内状を10月下旬に発送する予定であること、CAPサーベイアンケート調査の結果が報告された。

### 3. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告（一山 智 会長）

平成24年11月29日（木）～12月2日（日）に、国立京都国際会館で開催予定の第59回学術集会の学術企画の招聘講演、特別講演、教育講演、各シンポジウム、合同企画の共催シンポジウム、実習セミナー等の内容、プログラムが発行される抄録原稿が配布され、一般演題446題（口演397題、ポスター49題）となり、準備が順調に進んでいること、また、同時に開催する第12回ASCPaLM会議について、そして、臨薬協主催の「臨床検査機器・試薬 総合展示会2012 京都大会」（参加企業30社）が学術集会中開催されること、招請講演が予定されていた山中伸弥教授の講演は都合によりiPS細胞研究所の中畑副所長に交代になったことが報告された。

### 4. 第60回日本臨床検査医学会学術集会報告（矢富 裕 会長）

平成25年10月31日（木）～11月3日（日）に神戸国際会議場・展示場において開催予定であり、メインテーマとしては“一致団結 臨床検査”を候補としていること、第59回学術集会の際にプログラム委員会を行う予定であること、運営会社はコンベンションアカデミアに依頼することが報告された。

## 5. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会報告 (矢富 裕 総務担当、康 東天 会長欠席のため)

平成 26 年 11 月 23 日(日)～11/26(水)に福岡国際会議場において開催予定であることが報告された。

## 6. 第 12 回アジア臨床病理・臨床検査医学会報告 (矢富 裕 総務理事)

2012 年 11 月 29 日～12 月 1 日(木～土)、国立京都国際会館で、高橋伯夫会長のもと開催予定であり、主なプログラムの概略、参加依頼、HP で抄録のダウンロードが可能であること等が報告された。

## 7. WASPaLM 報告 (村上正巳 理事、WASPALM 東京事務局長)

201 年 9 月 25、26 日に、キプロスで開催された理事会報告がなされた。トルコとスリランカは加盟が承認されたが、加盟申請している中国は、すでに加盟している香港と台湾との間に問題があり保留となった。次回、第 27 回 WASPaLM は 2013 年 6 月 8～11 日にケベックで、第 28 回 WASPaLM は 2015 年 11 月 17～21 日にカンクーンで開催されることが報告された。なお、村上正巳理事が次期理事長候補として理事会で承認されており、2013 年のケベックでの WASPaLM 理事会で審議される予定であるため、当会と専門医会の推薦が必要であるか村上理事から WASPaLM の総務担当理事に確認の上、回答を頂くこととなった。

## 8. 平成 24・25 年度学術推進化委員会学術推進プロジェクト研究採択課題について (村田 満 理事長)

本件は委員会報告での学術推進化委員会報告のとおりである。

## 9. 支部の例会・総会・地方会会計報告のフォーマットについて (村田 満 理事長、前川真人会計担当)

7 月 8 日 (日) 第 2 回臨時理事会で、5 年前の支部地方会の会計に関する記録、資料がないことが問題となり、支部会計収支報告以外に、支部総会及び例会、地方会の詳細な会計報告も提出することになった。提出する会計報告フォーマットについては、会計事務所 (会計顧問) に相談のうえ理事会に報告することになっていた雛形が提示され、それぞれの会に応じて多少アレンジして使用頂くように依頼がなされた。なお、記録、領収証等は会計上 5 年間保管することが必要となる。

## 10. 支部総会、例会、地方会、講師謝礼、実務委員の謝礼支払い時の源泉について (前川真人会計担当)

東北支部から支部会での講演謝礼、実務委員等の謝礼についての質問があり、会計事務所に問合せ、支部会事務局から外部講師に謝金を支払うような場合、原則的には所轄の税務署に事業開始届を提出し、源泉徴収税を支払う必要があるということが報告された。

## 11. 当会からの関連団体への推薦について (村田 満 理事長)

8/26 第 3 回理事会以降に各団体に推薦した下記委員等についての報告があった。

- 1) ①臨床検査振興協議会医療政策委員会 WG-A「検体検査の臨床的価値とコスト」リーダー渡辺清明先生  
米山彰子先生、東條尚子先生から、米山彰子先生お一人に変更。(東條尚子先生は専門医会からの委員となる。)  
②医療政策委員会 WG-B「検体検査の診療報酬の仕組み」リーダー宮澤幸久先生  
木村聡先生から古川泰司先生に変更。(木村聡先生は専門医会からの委員となる。)
- 2) JCCLS ISO/TC212 国内検討委員会委員：村田 満 先生
- 3) 大学評価・学位授与機構「機関別認証評価委員会専門委員候補者」：北島勲理事を推薦。

## 12. 「日臨技-JSLM 合同 未来構想 WG (仮)」日臨技からの推薦委員について (村田 満 理事長)

当会では、渉外委員会の下部の委員会となり担当理事は尾崎由基男理事であり、当会と日臨技合同で委員会を開催し協議していく予定である。

当学会の委員は、

委員 長：本田孝行 先生

副委員長：横田浩充 先生

委員は、渉外委員会メンバー：安東由喜雄先生、諏訪部章先生、北島勲先生、高橋伯夫先生、橋口照人先生、日臨技からの委員としては、下記の推薦があった。

委員 長：松本祐之先生 (名古屋大学医学部附属病院)

副委員長：坂西 清 先生 (新潟県厚生連魚沼病院)

## 13. 日臨技「未来構想策定に関する委員会」報告 (村田満 理事長)

日臨技が主催している未来構想策定に関する委員会で、第 1 回委員会は 9 月 20 日に開催され、宮島会長から委員会の位置付け、目的、主旨説明があり、現状の認識、問題点について検討したこと、第 2 回委員会は 10 月 12 日に開催され、1) 患者に見える臨床検査技師、2) 人材育成、3) 職域という課題を絞ってまとめることとしたこと、

なお、当委員会は、あと2回（全4回の開催）で結論をまとめる予定であることが報告された。

#### 14. 日本専門医制評価・認定機構「中立的な第三者機関設立に向けた協議」報告（村田満 理事長）

9月26日に機構において、基本領域とサブスペシャリティの学会から1名ずつ出席した報告会であり、新しい専門医制度の仕組みの説明会であった。

専門医とは患者から信頼される情報提供をする立場と考えていること、基本領域18学会のうえにサブスペシャリティ学会が組織されて二階建てになっているが、基本領域に総合診療医という専門医を設立し地域医療を充実させようとしていること、認定は学会から独立した第三者機関が行うことを目指しているが、学会が第三者機関に加わり協力して認定するようなイメージであること、そして、専門医の広告について、当会は外形基準を満たしていないため広告ができないが、今後は、外形基準の見直しを予定しており標榜科とリンクすることを考えていること、2017年に後期研修に入る予定でありカリキュラムはできているが、専攻医のプログラムがまだ確定していないため検討中であること等が報告された。

#### 15. 一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会について

（矢富 裕 総務理事、川中士郎氏（日本電子）、渡邊達久氏（A&T）：15時説明のため来所）

10月1日に、日本臨床検査自動化振興会と臨薬協学会展示・協賛事業部会が統一された組織として、一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会を登記申請し、検査機器・試薬・システムの情報を医療機関及び関係者に提供し臨床検査分野の発展と国民の医療と福祉に貢献することを目的として、検査機器・試薬・システムに関する情報の発信、展示会の開催、国際協力の推進を事業として活動していく予定であることが報告された。設立時の社員、役員と、1月以降に新たな役員が選出される予定であること、今後は、各企業に広く当振興協会に入会の案内を送り、その後、日本臨床検査自動化振興会、学会展示・協賛事業部会の両団体は3月末には解散し、当振興協会が展示会を運営していく予定であること、来年秋から2015年までは会場の予約をしているため、そこでの開催となると考えているが今後の検討によっては変更される可能性もあること、来年度以降の助成金については、弁護士、税理士からの助言により、単なる寄付となると税金上の問題があるため共同事業として分配金という形を取るのがよいこと、共同事業の形としては今後、関係者と相談のうえ、計画していくこと、将来的には国際的な展示会の開催を目指していること、今年の臨薬協学会展示・協賛事業部会の京都での展示は最終的には34社であること、等が報告された。

#### 16. その他

##### 1) HbA1c 適正運用機構の報告（村上正巳 本委員長）

今年春に、日本糖尿病学会の要請を受け、当会を中心として村上正巳先生を委員長として設立された機構である。8月3日に第1回本会議を当事務所で開催した。そして依頼により9月1日にJCCLSの学術集会で当機構について報告を行った。HbA1cの標準化に関して、これまで特定健診がまだJDS値で報告されているという問題があったが、平成25年4月からは、特定健診のフォームが正式にNGSP値に移行することが決定して、10月24日付の日本糖尿病学会のHPに掲載されている。この通知文については当機構の意見が反映されており、厚生労働省からも正式な通知が発行される予定であること、現在の問題点としてNGSP値の認証が検査医学標準物質機構（ReCCS）において行われており、これに対して企業からさまざまな意見が寄せられているため、年内に当機構でReCCSとの協議を行う予定であることが報告された。

##### 2) 福島県立医科大学医学部臨床検査医学講座主任教授候補者の公募のHP、臨床病理誌への掲載依頼について

（矢富 裕 総務理事）

福島県立医科大学事務局総務課大学人事係より臨床検査医学講座教授公募の当会HPへの掲載依頼があったことが報告された。平成23年度第4回理事会で、大学などからの求人欄を当会の臨床病理誌とHPに設置し、依頼があった場合には常任理事会で確認後、適切であれば掲載するとなっていた。常任理事会での承認を受け、当会HPに掲載し、臨床病理10月号にも掲載予定であることが報告された。なお、福島県立医大では、県民健康管理調査の長期にわたる実施のため、臨床検査体制の強化と感染制御部門との役割分担の明確化が必要なことから、「感染制御・臨床検査医学講座」を「感染制御医学講座」と「臨床検査医学講座」に分けることとなったとのことであった。

## II 審議事項

### 1. 平成 24 年度臨床検査専門医認定試験会計報告（兵庫医大 2012/8/4~5(土日)）（前川真人 会計理事）

2012 年 8 月 4~5 日に兵庫医科大学で実施された臨床検査専門医認定試験費用の収支報告がなされ承認された。

### 2. 平成 24 年度中間決算報告・平成 24 年度補正予算案・平成 25 年度会計予算案について（前川真人 会計理事）

平成 24 年度中間決算報告については、平成 24 年度予算と平成 24 年度中間実績、平成 24 年 6 月 30 日時点の現預金残高が提示された。一般会計については、予算案として提示されたものから、評議員会費を来年の評議員数により 249,000 円を 250,000 円に、臨床検査振興協議会会費が定款改定により改定される可能性があるため 230 万円を 260 万円とし、外販収入を 1350 万円から 1380 万円に訂正した。特別会計については、補正予算を組み、記録集を作製したため東日本大震災対策費用として 100 万円、学術集会補助金として 1200 万円、職員退職掛金 220 万円を立てたことが報告され、承認された。

### 3. 平成 24 年度事業中間報告について（矢富 裕 総務理事）

平成 24 年度中間の事業報告がなされ、承認された。

### 4. 平成 25 年度事業計画（案）について（矢富 裕 総務理事）

平成 25 年度事業計画（案）の説明がなされ、承認された。

### 5. 会則改定について（×谷直人 委員長）

概ね正会員 10 人の中から 1 人の割合で評議員を選出すること、評議員をもって社員とすること、評議員の選出方法は細則にて定めること、評議員の任期は 5 年とし再任を妨げないこと、社員総会は全ての評議員で構成すること、社員総会にて法人運営上の重要事項を決議することは前回の理事会で確認されたことである。

理事と監事は評議員による選挙にて選出し社員総会にて選任決議するとし、支部理事と指名理事の選任方法は細則にて定めることとするが、指名理事については職域の関係で指名されているためそれぞれの職域 1 名として細則にて定める方向であること、理事の任期については 2 年間として重任は 1 回までとすること、監事の任期は 4 年間とすること、理事長は理事の互選によって決定すること、副理事長、業務執行理事は選挙にて選任された理事の中から理事長が指名し、社員総会にて選任決議すること、理事、監事は連続して 8 年を超えることは出来ないことを骨子として改定の協議を行っていることが報告された。

理事の人数、支部理事の選出時期などについて意見があり、その意見を踏まえて委員会で検討し、今後は、第 59 回学術集会での臨時社員総会で、社員に委員会での協議内容を報告の上、意見を聴取し、2013 年 3 月の定時社員総会で承認が得たいと考えているとのことであった。

### 6. 平成 25 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（村田 満 理事長）

名誉会員として松野一彦先生、保嶋実先生の 2 名、功労会員として北海道支部から伊藤喜久先生、東北支部から吉田克己先生、関東・甲信越支部から石和久先生、石橋みどり先生、菅野治重先生、小林芳夫先生、巽英二先生の 5 名、東海・北陸支部から鈴木宏治先生、高松純樹先生の 2 名、近畿支部から三家登喜夫先生、山村卓先生の 2 名、九州支部から犀川哲典先生、山田恭暉先生の 2 名、合計 13 名が推薦され、承認された。

評議員としては、北海道支部から紀野修一先生、東北支部から金光敬二先生、関東・甲信越支部から坂本輝彦先生、中山智祥先生、柴田綾子先生の 3 名、東海・北陸支部から古市賢吾先生、近畿支部から杉本健先生、吉賀 正亨先生、長尾美紀先生の 3 名、九州支部から柳原克紀先生、大久保久美子先生の 2 名、合計 11 名が推薦され、承認された。

なお、東北支部からの金光先生以外に 2 名の推薦があったが、評議員の定員数をオーバーしているため、本年度は 1 名のみ承認し、次年度以降に再度推薦頂くこととなった。

また、九州支部から推薦された 1 名については、細則の評議員選出の条件の中で会員歴を満たしていないため、これを満たしてから推薦頂くこととなった。

### 7. 副理事長の選任と常任理事（平成 25 年度より）（案）（村田 満 理事長）

現副理事長の安東由喜雄先生が学内での都合により副理事長を 2012 年 12 月末日で辞退されるため、2013 年度からの副理事長ならびに常任理事（案）について下記の通り報告があり、8 月 26 日の第 3 回理事会でも選出方法については、定款改定が進んでいるが現在の定款、細則に沿って行うことで了承されており、特に問題なく承認された。

常任理事（案）

理事長 村田 満、副理事長 前川真人、総務担当 矢富 裕、会計担当 北島 勲

8. 第62回(平成27年度;2015年)学術集會長の推薦について(村田 満 理事長)

東海・北陸支部より、清島満教授(岐阜大学大学院医学系研究科病態情報解析医学)の推薦があり所信表明が提示され、承認された。

9. 指導医について(村田 満 理事長)

当会の教育委員会委員長であり、当会からの専門医制評価認定機構の関東甲信越地区のサーベヤーでもある山田俊幸先生より、専門医制評価認定機構の専門医研修施設の評価項目に指導医の評価項目があり指導医FDの有無などを取り上げている。当会では、現在、専門医=指導医とみなしているが、指導医の定義等を検討すべきではないかと検討依頼があったことが報告され、教育委員会、研修施設・指導者認定委員会等で協議して頂くこととなった。

10. 各種契約更新について(村田 満 理事長)

2013年度の下記各種契約について、従来とおり継続することで承認された。

(株)宇宙堂八木書店:臨床病理誌制作委託、事務委託

克誠堂出版(株):外販委託

(株)東広社、(株)大矢商会:広告募集委託

蛤谷会計事務所:顧問(会計)

古川俊治先生:顧問(弁護士)

11. 日本臨床微生物学会からの感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)に関する協議会制度の設立及び参加加入の要請について(村田 満 理事長)

日本臨床微生物学会からの感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)に関する協議会制度の設立及び参加加入要請について報告され承認された。

12. 救急認定検査技師制度認定機構について(村田 満 理事長、久谷直人 理事)

8/26第3回理事総会で指摘されたことに対する回答書が提示され久谷直人理事より説明があったが、日本臨床緊急医学会との関係が明確になっておらず設立母体が明確でないため、認定制度を行っていく組織として条件が整っていないという判断がなされ、今回は、当認定機構の支援団体となることはできないとの結論となった。

13. その他(矢富 裕 総務理事)

理事会、定時社員総会日程

次回平成25年度の第1回理事会、定時社員総会日程について確認された。

平成25年度第1回理事会・定時社員総会:平成25年3月24日(日)正午~・15時~

V 閉会の挨拶(副理事長)(安東由喜雄 副理事長)

安東由喜雄副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

宮地 勇人 

野島 孝之 